



特集

放課後の「学校」は、
楽しい「子どもの居場所」



市内企業レポート
さんかく図書室
行ってきました
おうめの散歩道
現場の芽
人のわ

よつばの手紙



青梅市男女平等情報紙 No.16

放課後の「学校」は、 楽しい「子どもの居場所」

小学校に入学した子どもたちは、友だちとのつながりや活動の幅が広がり、習い事も含めて放課後の時間の使い方が多様化します。

市では、放課後の安全で安心な「子どもの居場所」として、さまざまな体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室(タヤケランド)」と保護者が仕事などのため一定の時間保育を行う「学童保育所」を開設しています。

今号では、青梅第五小学校でのタヤケランドと学童保育所の活動の様子を紹介します。また、これらが連携した取り組みが進められており、連携の様子についても伺いました。

放課後子ども教室(青梅第五小学校)

コーディネーター 和賀礼子さん



教育活動推進員 清水浩子さん



安全で自由に遊べる居場所

放課後子ども教室(タヤケランド)について教えてください。

第五小では、週3回(月・水・金)子どもたちの授業終了後から17時まで(3月から10月の間。11月から2月までは16時まで)、子どもたちが安全で自由に遊べる居場所として実施しています。

第五小に通っている子どもを対象に、登録は随時受け付けており、登録すればだれでも参加することができ、一度の手続きで卒業まで有効です。利用に当たって料金はか

かりません。

遊びに来る時は、登録時に渡す出席確認カードに保護者の印鑑を押して持ってきてもらい、スタッフが確認しています。カードには、早い時間に下校させたいなど、保護者からの連絡事項があれば記入してもらいます。スタッフからも、お伝えしておいた方がいいことがあれば記入し、当日の参加確認印を押して返しています。

参加する児童数は季節や曜日、イベントの有無によってさまざまです。夏場は50〜70人ほど来ますが、冬場は時間が短いこともあり20〜30人くらいです。

スタッフにはどのような役割がありますか。

スタッフは、保護者や地域に関わりのある人などが市の社会教育課に登録して活動に参加しています。全体的な運営管理を行うコーディネーター(1人)、活動プログラムを中心的に実施する教育活動推進員(1人)、子どもたちの安全を見守り、一緒に活動する教育活動サポート(5人)の合計7人で対応しています。

子どもたちは教室・体育館・中庭・校庭・合科室(さまざまな教科を実施する教室)などに分散して好きな遊びを行います。スタッフも各所に



ダンボールを使った工作や竹細工

分かれ、必ず目の届くところで見守るようにしています。万一事故やけがをした場合には、保護者と連絡を取り対応します。

日ごとの活動時には、学級担任も気にして声をかけていただけますし、校長先生や副校長先生からも、いつでも連絡を取れるよう配慮していただいているので安心です。

スタッフ自身、子どもたちとの関わりによって元気をもらっています。

子どもの元気な反応が楽しい

子どもたちはどのようなことをして過ごしていますか。

参加人数にもよりますが、ひとつの場所に全員を集めることはできないので、何か所かに分かれ、子どもたちのやりたい遊びをやっています。とくに体育館や校庭などで行う

ドッジボールやサッカーなどは人気があります。人数が集まらないとできない遊びを求めているように感じます。

教室には、宿題をやりたい子や読書をしたい子のためのスペースを設けています。

卒業した子(中学生)が遊びに来て、低学年の相手をしている姿を見ることがあります。本人自身が低学年のころ、高学年の子に遊んでもらい楽しかったという思い出があるとのこと、とてもうれしく感じました。中学生ボランティアも受け入れられているので登録してもらおうように、声をかけることもあります。

地域の人たちとの交流はありますか。

毎回、さまざまなイベントを企画しているのですが、定期的に地域の人たちが準備から実施までボランティアで入ってくださいます。のこぎりを使って竹切り、草を編んで虫作り、段ボールを使った恐竜作り、本格的な競技輪投げなど、子どもたちが楽しめる企画を立ててくれています。

マジックショーや南京玉すだれの出し物の時もあり、紙しばい劇場や読み聞かせも好評です。

子どもにとっては貴重な体験の間です。カレンダーを確認して、参加を決めている子もいるほどです。

協力してくださるみなさんから、子どもたちの元気な反応が返ってくるこの教室は、とても楽しいという感想をいただいています。

地元の人たちの協力によってさまざまな企画が実施できることに感動しながら、本当にたくさんの方が関わってくださることに感謝しています。

学校や学童保育とは、どのように連携していますか。

学校、学童保育指導員、コーディネーターが毎月1回集まり学校区協議会を開催しています。

その場で学校行事の確認を取り、早め使用できる施設を把握することができま。

また、緊急時などに活動中止の連絡をする場合は、学校の協力により学校から保護者に一斉連絡をさせていただきます。



楽しんでもらえるよう工夫しています

今年度から学童保育の子どもたちとの交流が毎週1回開催され、学童保育の指導員とはさらに密に連絡を取ることができるようになりました。

一人の子どもが、学童保育と夕やけランドの両方を同時に登録することはできないのですが、定期的に交流し、一緒に遊ぶことで、子どもたちみんなの放課後の居場所になるという目的がかなえられていると思います。

放課後子ども教室の活動状況

名称	実施校	活動日
夕やけランド二小	第二小学校	月・水曜日
夕やけランド三小	第三小学校	水曜日
夕やけランド四小	第四小学校	水・金曜日
夕やけランド五小	第五小学校	月・水・金曜日
夕やけランド六小	第六小学校	水曜日
夕やけランド小曾木	第七小学校	月・水・金曜日
夕やけランド成木小	成木小学校	水曜日
夕やけランド河辺小	河辺小学校	水曜日
夕やけランド霞台小	霞台小学校	水曜日
夕やけランド友田小	友田小学校	水曜日
夕やけランド今井小	今井小学校	水曜日

※2017(平成29)年度から第一小学校、新町小学校でも開始します。

※すべての公立小学校で実施できるよう調整を続けています。

※活動内容は各教室によって異なります。

お問い合わせは社会教育課(0428-221111)まで。

学童保育所(青梅第五小学校)

学童保育指導員 田中 貞江さん



「元気よく「ただいま!」」

学童保育所について教えてください。

仕事や疾病などで、日中保護者がいない家庭を対象に、放課後に子どもを預かり、保育するのが学童保育所です。

第五小ではAクラス、Bクラスの2クラスあり、定数は合わせて100人です。

預かる子どもは、青梅市が入所決定をしています。高学年と比較すると低学年の子どものほうが優先して入所できるような仕組みになっているようです。

クラス分けでは、学年などのバランスが考慮されています。

子どもたちはどのようなことをして過ごしていますか。

授業終了後子どもたちは元気よく

「ただいまー」といって教室に入ってきます。これは家に帰ってきたという家庭的な雰囲気をつくるために行っています。

子どもたちはまず宿題をします。宿題が終わった子は、静かに本を読むなど教室内で時間を過ごします。15時過ぎにおやつを食べ、それから校庭や教室での自由遊びとなります。

下校時間については、各々帰らせるのではなく、15時半に帰る子、16時に帰る子、16時半に帰る子と30分単位にして集団で下校させるようにしています。

帰宅時間が17時以降になる子は保護者が迎えに来ます。18時から19時までは延長保育となり、10人くらいが利用しています。

春・夏・冬の学校の長期休みや土曜日、運動会など学校行事の後の振

替休校日も保育を行います。

学校が休みのときは、朝8時から9時までに登校してもらい、初めの45分間は勉強をします。勉強をする習慣をつけるためです。その後は、遊び、昼食、夏は昼寝、そしてまた遊ぶといった流れで一日を過ごしています。

スタッフにはどのような役割がありますか。

社会福祉協議会が指定管理者として業務を担っており、学童保育指導員として、1クラス2人体制で配置されています。

基本的には、教員免許や保育士資格などを取得している人が指導員となっています。制度改正があり、現在は、指導員としての資格があるため、その資格取得のための研修を受

けることが義務付けられています。日ごろは、子どもたちが事故のないよう見守るほか、時間を管理するのも重要な役割です。子どもたちが教室に入ってきたら、まず連絡帳を確認し、下校時間の把握をします。特別な支援が必要な子どもをお預かりすることもあるので、その場合は、指導員を追加して配置し、付き添い見守りをしています。

指導員は、おおむね4年ほどで学校の異動があります。

また、ほかの学童保育ではどんな活動を行っているかなどの情報共有のために指導員の集まりが毎月行われています。救急時の対応などについて意見交換や助言をしあっています。

交流の機会が楽しみ

地域の人たちとの交流はありますか。

学童保育は、地域に関わりのある指導員が配置されている訳ではありません。そのため、夕やけランドとの交流が始まる前は、地域の人と関わる機会はほとんどありませんでしたが、交流が始まってからは、南京玉すだれや竹切り体験などを指導してくれる地域の人たちと関わる機会が増えてきました。

交流の機会は、昨年度までは月1回でしたが、今年度から週1回となり、子どもたちもとても楽しみにし



学童保育も一緒にイベントを盛り上げます

ています。

夕やけランドとは、どのような連携を取っていますか。

夕やけランドとの交流が始まって2年になりますが、手探りで一緒に進めてきました。

夕やけランドのスタッフがとても感じが良く、なんでも相談がしやすいです。夏祭りやクリスマスなどのイベントでは一緒に盛ります。

個人的には学童保育と夕やけランドの教室を分けることなく、同じ学校の子どもたち同士と一緒に遊べたらいいなと思っていたので、交流の機会を通じて一緒に遊ぶことができ、子どもたちが楽しそうにしている姿を見るとうれしですし、連携がとてうまくいっていると実感します。

クラブ名	定数
第一こどもクラブ	100
第二こどもクラブ	80
千ヶ瀬こどもクラブ	60
第三こどもクラブ	114
大門こどもクラブ	120
第四こどもクラブ	60
第五こどもクラブ	100
第六こどもクラブ	40
第七こどもクラブ	40
成木こどもクラブ	29
河辺こどもクラブ	100
新町こどもクラブ	100
新町第2こどもクラブ	60
霊台こどもクラブ	100
友田こどもクラブ	50
今井こどもクラブ	100
若草こどもクラブ	100
藤橋こどもクラブ	72
吹上こどもクラブ	37
ほうかごNICOLAND	40
オルオルネクストかべ	36

市内の学童保育所 2017(平成29)年4月現在

※学童保育には、育成料(月額5,000円)とおやつ代(月額1,500円~2,500円)の費用負担があります。(延長保育利用の場合は別途費用負担あり)
 ※ほうかごNICOLAND・オルオルネクストかべは民間学童保育所です。
 ※問い合わせは子育て推進課(0428-22-1111)まで。

市内企業 レポート



お客様の手間を減らし、本業に専念できるように、
印刷に関してワンストップで対応できる
プリンティングカンパニー



よねざわ まさのり

有限会社米澤印刷所の米澤正仁社長にお話を伺いました。代表取締役社長 米澤 正仁さん

事業内容

主に商業用の会社案内やパンフレット・リーフレットなどのデザイン制作および印刷を行う事業をしています。その他にも写真撮影や画像補正、ホームページ作成の事業もしています。印刷を通じて、お客様の繁栄と地域社会の発展に貢献できるように日々、心掛けています。

弊社は、お客様のご依頼に対して最初から最後までワンストップで対応して、高付加価値、高品質な印刷サービスを提供しています。

会社での取り組み

弊社では、男性社員、女性社員ともにほぼ同じ人数で作業を行っています。デザイン制作では、女性ならではの表現や、やさしい感じを作り出して、第一線で活躍しています。営業活動や配達でも女性社員が積極的にお客様のところに足を運んでいます。みんなが生き生きと仕事をこなしてもらえるように、今以上に職場環境を整えていきたいと思っています。

新しいことへのチャレンジ

2016（平成28）年7月に新しい設備を導入し、事業

の拡大に伴い、徐々に依頼も増えてきています。時代の変化が激しい昨今、環境の変化に対応しながらお客様の細かい要望に応えて、顧客満足度を高めていきたいと考えています。そのためにも、積極的に新しい事業に取り組み、男性社員、女性社員が協力して活躍してもらいたいと考えています。

今後について

社員が働きやすい環境を整えていくために、時間に拘束されない勤務体系を作りたいと思っています。そうすることが、優秀な人材の確保にもつながり、仕事以外の子育てや学校行事、地域活動への参加にもつながり、地域社会の発展にも貢献できると考えています。社員に切磋琢磨してもらい、お客様からの信頼を得て、会社を成長させていきたいと思っています。



有限会社米澤印刷所（野上町2丁目）
設立 1960（昭和35）年4月
従業員数 7人（男性3人 / 女性4人）
印刷物全般を行う総合印刷・写真撮影、画像補正・
ホームページ作成等 <http://www.yonezawa-inc.jp>



DVD

ふたりのロッセ 松竹 / ヨゼフ・フィルスマイヤー 監督

エーリヒ・ケストナー原作のドイツ児童文学の名作を実写化。
両親の離婚により、お互いの存在を知らないまま育った双子の姉妹の物語。音楽家の父と暮らすやんちゃなチャーリーとキャリアウーマンの母に育てられた優等生のルイズ。ある年、サマースクールで一緒になった二人は、ひょんなことから双子だったことを知り、すっかり仲良くなります。

そして、それぞれまだ見ぬ父母に会いたいという思いから、お互いになりすまし、今までは逆の親のもとへと帰宅します。

あこがれていた父、母は、二人が思い描いていた姿とは違うものでしたが、一緒に暮らすうちに二人は両親を仲直りさせようと計画します。

保健室ものがたり こんのひとみ / ポプラ社

シンガーソングライターのこんのひとみさんが全国各地の小学校などを「出前ライブ」で訪れた際に、そこで出会った子どもや先生から聞いた実話12編。

寂しいとき、疲れてしまったとき保健室の先生は、優しくあなたを迎えてくれます。教室では言えない気持ちもなぜか保健室だったら……。

子どもたちの気持ちをしっかり受け止めたいと思うとともに、ふんわりと温かい気持ちになる一冊です。

子どもも、おとなも、先生も。みんな、居場所をさがしているのです。（あとがきより）



『ふたりのロッセ』『保健室ものがたり』は、青梅市中央図書館で所蔵しています。電話番号 0428-22-6543

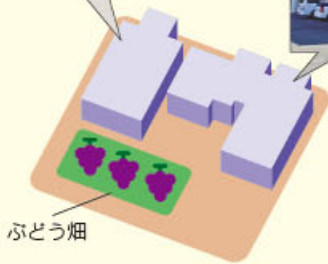


行ってきました

青梅市自立センター

今回は身体・知的・精神に障害のある人の就労訓練などを行う就労支援事業所と日常生活を中心としたさまざまな支援を行う生活介護事業所の二つの機能を併設した「青梅市自立センター」へ行ってきました。

同センターは、青梅市により設立された社会福祉法人である青梅市社会福祉事業団が運営しています。



青梅市自立センター
青梅市今井 5-2434-2
電話 0428-32-1631

● 就労支援事業所

就労を希望する人の支援や就労訓練を行い、就職につなげる取り組みや事業所内で実際の作業に取り組みでいます。

利用者は就職活動のほか、企業や市からの委託業務、イベントで販売する木工や陶芸のオリジナル商品の制作など得意分野や能力に合った作業をし、工資を得ています。

皆さんが目にする機会が多い青梅市の封筒もこちらで作られています。



● 生活介護事業所

何らかの介護が必要な人の心身の充実が図れるよう日常生活の支援をしています。職員が一人一人に寄り添い、リハビリ支援や創作活動、食事支援などを提供し、1日の生活をサポートしています。



どちらの事業所も一人一人が何らかの作業に携われるよう作業分担の細分化や工程に工夫がされています。作業のなかには同じことを繰り返すものもありますが、毎日同じ作業を行うことが多くの利用者にとっては適正につながり、それが心の安定となっているとのことでした。

◇ ポツパルトの雫

青梅市で生産されたぶどうで作られるワイン「ポツパルトの雫」のぶどうの大半は青梅市自立センターの畑で栽培されています。地域のひとともに利用者やそのご家族が笠かけ作業や収穫などに参加し、大切に育てています。



収穫の様子



ポツパルトの雫

◇ オリジナル商品

青梅市自立センターで作られる商品は、消費者のニーズを考えながら利用者と職員が協力し、開発に力を入れていきます。

ヒノキや多摩産の杉を使った木工品、陶芸品や手すきのハガキなど豊富にあります。

色とりどりの手すきのハガキ



〔オリジナル商品の主な販売場所〕

- ・ JA 西東京かすみ直売センター
青梅市新町 2-28-19
- ・ 赤塚不二夫記念館
青梅市住江町 66
- ・ みたけ歩楽里道
青梅市御岳本町 310



愛らしいマグネットクリップ

おうめの散歩道

市民の憩いの場、釜の淵公園には、柳淵橋と鮎美橋の二つの橋があります。

柳淵橋は、西側駐車場から歩いて渡ってみてください。散歩道の始まりです。

橋を渡り、多摩川を左に見ながら、クヌギ、コナラの木々の間を抜けると、鮎美橋が見えてきます。

鮎美橋は真っ白くきれいな形をしており、どの方向から見ても美しいと感じます。対岸の美術館のなかから見える橋は、自然と調和したお勧めの眺めです。また、橋に八か所ある六角形の外灯が目にとまり、思わず下からのぞいて見たくなります。

春は川辺にある桜並木の桜色、夏は深緑を、橋とともに楽しめます。



桜並木



鮎美橋



新緑祭 (毎年5月)



柳淵橋からの眺め

現場の芽

青梅市民会館

1966(昭和41)年に開館した青梅市民会館は、老朽化などを理由に、2017(平成29)年3月末をもって閉館し、50年の歴史に幕を下ろしました。

開館以降70万人を超える人に利用された市民会館は、客席数585席のホール、会合やサークル活動などで利用された会議室・料理教室、地下には多目的室と、さまざまな機能を兼ね備えていました。多目的室の場所は、かつて食堂や売店があり、食事や買い物をしたことを懐かしく感じる人もいるかもしれません。

市民会館の顔であるホールは、自身が舞台に立った記憶、親や子ども、孫、友人などの晴れの姿の思い出が詰まった場所として、多くの市民に親しまれてきました。

また、コンサートや落語、民俗芸能など、良質のアーティストを地元で手軽に楽しめるよう、市の主催事業として、市民劇場や市民映画会を年8回程度開催してきました。

長年舞台管理を手がけてきた石坂登美雄さんによれば「青梅市民会館の良いところは、単に舞台管理をするということではなく、私たちが参加させてもらう形で、出演者と一緒舞台上を作り上げていくことができた点でした」とのこと。

閉館直前の3月30日・31日の2日間、市民と市との共催により、記念セレモニーやメモリアル展示、ホールでは多くの団体が参加しパフォーマンスを披露するなど、最後を飾るイベントとして盛大に開催されました。

今後は、市民が集い、身近で親しみある生涯学習施設として生まれ変わり、新たな幕が開きます。



市民劇場(海援隊)2012(平成24)年6月3日

青梅囃子会 会長 富樫 慶次さん
事務局長 長谷川 力さん

青梅囃子会は、市内に多くある囃子会や囃子連がつながり合える場がほしいと考え、2001（平成13）年7月に発足しました。

発足当初は18団体の参加によりスタートしました。15年が経った今では21団体、総勢約千人が参加しています。囃子会を立ち上げたことで、一体感が生まれ、それぞれの囃子連が助け合い、より良いお祭りづくりができています。

青梅囃子会としては、第1支会の自治会が参加する青梅大祭の実行委員会、主に山車の巡行を担わせてもらっています。

お囃子というイメージがありますが、全体の4分の1は女性で、女性が活躍する

ことによって盛り上がりつつあると感じることもあります。

「とにかく祭りが好き」

この思いは、お囃子をやっている人たち共通の思いではないでしょうか。私たちは心からお囃子を楽しんでいます。たくさん子どもたちや大人にも、お囃子に参加してもらい、一緒にお祭りを楽しんで盛り上げたいと考えています。

それぞれの囃子連では、老人ホームや保育園などに行き行って演奏し、伝統芸能を伝える事を大切にしています。

これからも地域のつながりや伝統芸能としてのお囃子を守っていききたいと思っています。



調布大祭 毎年4月の第2土曜日・日曜日
青梅大祭 毎年5月2日・3日

相談窓口の案内

	相談先	内容
女性の相談	東京ウィメンズプラザ Tel. 03-5467-2455 毎日 9:00～21:00（年末年始は休み）	女性の総合相談 ドメスティック・バイオレンス、夫婦・親子の問題、生き方や職場の人間関係など（就職活動の支援は行っておりません）
	東京都女性相談センター 多摩支所 Tel. 042-522-4232 月～金曜日 9:00～16:00（土・日曜日、祝日、年末年始は休み）	
	青梅市役所 Tel. 0428-22-1111 月～金曜日 8:30～17:00（土・日曜日、祝日、年末年始は休み）	
	青梅警察署 Tel. 0428-22-0110 緊急の場合 110 番通報	ストーカー被害の相談は、直接警察署にご連絡ください。
女性の就職	マザーズハローワーク立川 Tel. 042-529-7465 月～金曜日 9:00～16:00（土・日曜日、祝日は休み）	専属の担当相談員による女性の就職活動全般の相談（キッズスペース等併設）

男性のための悩み相談

東京ウィメンズプラザ Tel. 03-3400-5313 電話相談 月・水曜日 17:00～20:00（祝日、年末年始は休み）
夫婦や親子の問題、生き方・職場の人間関係、セクシャルハラスメントやDV、デートDVなどの暴力の問題など、男性の抱えるさまざまな悩みに男性相談専門の相談員が対応

編集後記

○子どもたちのために地域のたくさんの人たちが関わっていることを知り、うれしくなりました。各校それぞれの居場所では、コーディネーターにご苦労があると思いますが、頑張ってください。(み)
○企業において、男性、女性ともに優秀な人材を確保するためには働きやすい勤務体系を作ることが大切であり、それが地域社会の発展にもつながることを感じました。(い)

○青梅ワインは多くの人に関わり大切に育てられたぶどうで作られていると知り、早くも次の出荷が楽しみになりました。(お)
○春風に誘われながら散歩してみてください。テーマを決めて歩いてみると、きっといつもと違う散歩になりますよ。新たな出会いもまた魅力的です。(さ)
○とても身近なのに、私の中になかった地域と文化を知ることができました。(あ)

よつばの手紙 第16号 発行 2017（平成29）年3月 青梅市企画部企画政策課 電話 0428-22-1111 内線 2423
編集 男女平等情報紙編集委員会（三輪覚子 岩波直樹 岡田未来 佐々木照代 荒井苗都美）

よつばの手紙は「青梅市男女平等推進計画」にもとづき、男女平等参画社会の実現を目指し、編集・発行しております。
みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。